

令和5年12月 市長定例記者会見

令和5年11月21日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 今回ちょうど議会も始まりますので、補正予算についてということですが、今回この12月議会で上げていく補正予算としましては、前回の補正以降に予算措置が必要となったものということで計上しておりますし、その中で、国の補正予算に合わせた追加の経済対策事業も入れております。

それでは中身の話ですけれども、物価高騰対策です。

まず1つ目に、物価高騰の影響について、例えば施設などで利用料金に転嫁することが難しい障害福祉サービス事業所、介護サービス事業所、私立保育園等、例えば福祉施設ですとか、そういうところにおいての下半期分の電気料金等の高騰分を支援していきます。

それから、物価高騰ということで、例えば買い控えや消費意欲の低下というような影響も予想されるということで、引き続き電子クーポンのつるが割を発行することによって市内の小売業、飲食業等を支援していきます。

それから、これはまだ予算としては追加提出に12月議会ではなるかと思っているんですけども、重点支援地方交付金の低所得世帯支援枠というのが政府のほうで拡大されて、低所得者の支援もやっていくよということで、それをなるべく早くやってほしいんだという政府からの話があり、皆さん御存じかと思いますが、それに関しては、今はまだ国のほうの検討を待っているところではあるんですが、12月議会に追加で提出することになるのではないか、という予定もあるということです。

次に経済対策ということで、国の経済対策に伴いまして道路改良事業、水道事業の導水管の耐震化工事、下水道事業の雨水管の整備等を前倒しして実施するということを予定しています。

それから大きいところで、給食センターの整備があります。これも地元の説明会もしましたし、議会のほうでも説明会をさせていただいたんですが、咸新小学校の跡地に新給食センターを整備するというので、基本設計、実施設計等の予算を計上しております。

新幹線の開業対策についても、一つは、新幹線は御存じのように3月に開業しますけれ

ども、二次交通ということでコミュニティバスが重要になってくるということで、3月からコミュニティバスの一部路線のルートを変更するというので、新幹線開業後の特に金ヶ崎方面への需要に対応するというのを考えています。

地元商店街のほうも、お客さんをこれから受け入れていくということで、観光客等の回遊性の向上を目的として実施するライトアップ等の環境整備を支援していくということ、3月16日までにできることとして予算を計上しています。

そしてこれは来年度の話になるんですけども、新幹線敦賀開業まちづくり推進会議がありますけれども、ここで話を進めている音楽フェス、来年度開催予定ですけども、これに向けて債務負担行為を計上するというのを今回の予算では上げております。

そのほかに主なものとして3つ紹介をトピックス的にさせていただきますと、1つ目に、ふるさと納税の寄附見込額、これが増加するというので、返礼品の送付等に係る経費を計上しています。

2つ目に、市役所内の働き方改革については、これまでも記者会見でもご紹介、ご説明しておりますけれども、これを推進するというので、電子決裁の導入、会議室等の無線通信環境を整備するという予算を上げています。

3つ目に、公共事業の施行時期を平準化するというので、どうしても月によって、季節によって公共事業が多かったり少なかったりということが、事業者さんにとってもあまりいいことではないということで、なるべく平準化したいという話をしているんですけども、その一つとして道路維持修繕等の工事を前倒しで発注します。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。最初に幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 ふるさと納税の寄附見込額の増加ですけども、先月の記者会見では、駆け込みの可能性もあるのでまだ年間通したものは難しいということでしたが、現時点でどの程度の見込みなのか、あるいはどの程度増加するか丸めた数字でも、今言える範囲でお願いします。

【市長】 たしかなんですけども、87.5億が去年ですよ。今年90億を見込んでいますということになっておりますので、その分のということで、今回の補正予算にも入れているということです。

【記者】 これは既に90億いっているということではなく、このペースだと見込みという

ことですね。承知しました。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 給食センターの予定地が咸新小学校の跡地に方針として決まったというところで、咸新小学校の跡地が選ばれた理由と、改めて新しい給食センターの意義とといいますか、市長としてどういうふうに考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 もともとあそこは学校があったということで市有地ということもあって、土地の取得等もないということ。それから咸新小学校の場所が、敦賀はもともとコンパクトではあるんですけども、それでもどちらかというところどこにでも距離的に行きやすい場所である、交通の便も悪くないところであるということ。それから今回、皆さんご承知のように文化財センターもあそこ跡地ということを考えているんですけども、文化財センターも例えばで言えば、これは地元の要請もあったと聞いているんですが、小学校の跡地ということで人が集まるようなことも考えてほしいという話があります。

給食センターも、食育ということがあって、食育の一環で給食センターを見学するとか、そういうことも学校の遠足や校外学習で考えられるとなると、そこで2つそういう場所があるということになります。一つの場所にそういう施設が2つあるということで、そういうこと取組もこれからできるのかなということもあります。理由はそういう意味では一つじゃないんですけども、あそここの場所、幾つか候補地を挙げる中で、いろんな比較はしたんですけども、咸新小学校の跡地ということで検討しているということになります。

【記者】 もう一つの改めて新しい給食センターで変わるということか、意義というか、市長としてどのように考えていますか。

【市長】 もともと今の給食センターが大分老朽化していて、時々設備の故障とかで給食が安定的に供給できないということがここ数年何回かありました。新しい設備で、あと衛生面とかでも最近の施設はすごく進歩しているということも含めて新しい給食センターをつくったほうがいいのではないかという話は、市民の方や議会のほうからということもあり、それに向けてずっと検討してきて、やっぱり新しい給食センターをつくったほうがいいということは話としてありました。ある意味、やっとなんか具体的な計画としてできるようになったと思っています。

【記者】 冒頭のふるさと納税の関連で、90億を見込まれているということですが、これは過去最高になるんですね。

不安定な制度ではあるという先月のお話もありましたけれども、結構まとまった金額の

寄附額になっていて、その活用策というのは現状どのように考えていらっしゃるでしょうか。

【市長】 この活用策が金額が大きいからなかなか逆に難しいというところが出てきました。そういう意味では、募集するときに今まで枠を提示しながら、どのように使うかということ寄附者の方にある程度選んでいただくということもありましたが、なかなかそれで対応が難しくなったというのはこれまで記者会見で申し上げたことがあるかもしれないし、議会でもそういうことを言って、一旦その枠は外している形にしているんですね。

そういう意味では、この使い方というのは、せっかく寄附していただいたので大事なと思っていて、ある意味誇れるような使い方、寄附者の方にそれをしっかりと行っていかなければならないという思いはあります。

本当は寄附者の意向をうまく反映できるようなやり方というのでも考えたいということを検討しつつ、今は、原則的にはできるだけ経常的な経費には使いたくないというところがあります。不安定な制度というものはあるので、なるべく一時的な経費に充てていきたいなと思っており、そういう意味でいうと、今ちょうどいろんなものの施設の老朽化が進んでいたり、それから新幹線開業のタイミングで、ある意味この好機を生かす投資というものも必要だということで、そういったことを想定した、しかも寄附者の方に納得していただけるような支出というのを考えていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。そのために基金に積み立てていらっしゃるということですか。分かりました。

それと、今回、過去最高を更新ということですが、その要因をどのように分析されていらっしゃるか。

【市長】 やっぱり、ふるさと納税を担当している部署は、いろいろ話を聞いていると、本当に自分たちで頑張っている努力して、どうやったら寄附者の方に返礼品も含めて敦賀の魅力を感じてもらえるのかということの努力をしていることは話を聞いていて感じるんです。そういうところが寄附者の方にも伝わっているのかなと思います。

返礼品、いろいろ言われますので、私も本当にこの制度はこのまま続くのかなというところは思うんですけども、一方で、地元ゆかりのものを出しているという意味では、地元の産業の活性化にも役にも立っていますし、そういうふるさと納税のいい面に目を向ければ、そういう意味では敦賀市はうまくやれているのかなと思います。魅力的な返礼品を提供していただいている業者さんにも感謝しなければいけないですし、この制度でいけているうちは、このようにうまく回っていくようなことは、ルールを守りながら継続して

やっていきたいな思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長主幹】 それでは、フリーの質問対応に移りたいと思います。初めに幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 新幹線開業がいよいよ近づいてきております。取材している中でよく聞くのが、嶺南の6市町がこんなに一体となって何かに取り組むことって今までなかったということをよく聞きます。

取材しながら考えますと、終着地であるがゆえの玄関口効果、行き止まりだからこそその玄関口というところがすごくいいほうに行っているのかなと感じています。以前と比べるとのは難しいかもしれませんが、自治体ごとの連携など、そういった点に新幹線が影響を与えているかどうか、お感じになられているところをお聞かせください。

【市長】 嶺南6市町という言い方をしますけれども、例えば首長同士で集まるとき、昨日も小浜で知事との政策ディスカッションがあり、集まる機会があると、集まって雑談も含めていろんな相談をさせてもらっています。

新幹線が来るというのをすごくいいタイミングだと捉えていて、もう一つは、自分たちの町だけでやるよりも連携したほうが自分たちの町にもたくさん人が来てくれるようになります。自分たちの町だけでやっているよりは、連携してやっていったほうが相乗効果も含めてたくさん人が来てくれるようになるよねという意識を共通して持っている感じを持っています。それが今、本当にうまく回っているんだろうなと思っています。

ただ、今のままで全部が全部いいかということ、本当を言うと6市町でもっとやっていけることはあるのだろうなと思っていて、それは近づけば近づくほど、それから3月16日以降も含めて、嶺南6市町でやれることは何なのかなと雑談でも話をよくしているので、これからまたそういうことも考えていけたらと思います。

もう一つが、6市町という言い方をしましたけれども、先週、道路の要望活動で国道8号のことがありましたので、南越前町の町長とも一緒にしゃべっていたんですけども、南越前町の町長も、やっぱり敦賀と新幹線開業というタイミングで連携していけたらいいということをお願いしていて、例えば鉄道遺産や、あるいは北前船の話など、南越前町と連携してやっていけることもあるということで、新幹線に向けてということと言うと、敦賀だけでやるということじゃなくて、周りの市町と連携してやれることというのはまだまだあるのかなと思っています。

本当に、いい雰囲気できている感じですね。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方よりお願いいたします。

【記者】 来週の議会開会の挨拶で言及されるのかもしれませんが、今年4月に就任されて、間もなく今年が暮れようとしておりますけれども、この1年の振り返りと来年への思いについて聞かせてください。

【市長】 この1年、自分として振り返って言うと、何かあまり振り返ることもなく今まで来ているということで、本当に振り返ってないです。言われてみれば全然振り返ってなくて、これから何するとか、これからあれしなきゃとか、そんなことばかり考えているので、特に振り返ってないです。

振り返れと言われたら、自分では一生懸命やってきたつもり。成果というのは、これから皆さん見ていて、市長が替わってから何か変わったとか、何かできたと思っていられると思うんですけども、それはこういうことをやれたと後から皆さんに思ってもらえるように頑張っていきたいなと思っています。

【記者】 予算にも絡む話で、新幹線に関してお伺いしたいのですが、3月16日を目指してという意味では、多分12月議会が事業化できるものとしては最後になるなというふうに思うのですが、3月16日を迎えるに当たりまして、市長としての手応えと課題について、ありましたら具体的に教えてください。

【市長】 市役所の中で言っているのは、3月16日はゴールじゃないということは言っています。敦賀市内は全部そうかもしれませんが、3月16日までにあれやらなきゃ、これやらなきゃというのはあります。いっぱいあるし、いろいろイベントもやるし、それこそ3月16日にもいろんなセレモニーもあるから、それに向けてすごく大変ではあるのですが、そこで燃え尽きないようにしようと。3月16日からが大事だという話をこのタイミングで始めています。

その中で、これまでの手応えということで言うと、さっきの嶺南6市町みたいな話もありましたけれども、そういうこと。それから県と新幹線に向けての相談やタイミング、だんだん時期が近づいてきているということもあるから、そこで本当にやらなきゃということで、連携も取れているような気がしますし、あと敦賀市内で春から夏、それから秋、敦賀まつりありということで、イベントをやっているけど本当に盛り上がってきているし人出も多い。その人出の多いところで、いろいろ市民と話をしているけど、新幹線そろそろ来るし盛り上がってきたと言っていただけになったなと思っています。新聞でもカウ

トダウンもしてくれています。あと新幹線、実際、試験的に入ってきていますので、そういうのを目の当たりにしていることもあると思いますし、本当に雰囲気は盛り上がってきているという意味では、手応えは感じています。

課題はいっぱいあって、来てもらった後の宿泊や、飲食、車の二次交通、駐車場など、それ以外にも、来てもらって敦賀の評判がよくなるような観光地の磨き上げなど、まだまだ課題はいっぱいあると思っていますので、一つ一つそれをクリアしていかなくちゃいけないなと思っています。

そういう意味では、課題は何ありますかと言われたら幾らでも話ができるぐらい課題があるので、これ一つということではないと思っています。

昨日、知事との政策ディスカッションで話をしましたが、新幹線が来るということで観光誘客戦略を持ってやっていきたいと思いますという話の中で、それに絡めて、敦賀はまちづくりを同時にやっていく、そういう段階なのだろうと思っています、駅周辺はotta（オッタ）があり、こんな感じでこれからやっていくのが見えてきた。今後は金ヶ崎や商店街、氣比神宮の周りだったり、そういう話を一つ一つやっていかなくちゃいけない。どの時期にどのエリアの整備をしていくのかということを決めながら、それを皆さんにも、市民の方にも、議会にも示して一つ一つやっていくということは、これから大事なのかなと思っています。

【記者】 先日、日本活断層学会で、もんじゅの敷地内の原子炉がある建物の直下を活断層が通るといふ新しい学説が発表されたそうですけれども、この受け止めと、今後、例えば原子力規制委員会に何らかの対応を促すようなお考えがあるかどうかをお聞かせください。

【市長】 私も理系の人間だったので、学会とか、よく自分でも発表や出席していましたが、学会の場かということ、自分たちがこういうことを研究して、こういうふうな研究的な考え方、意見を持っていますということを発表しますが、それは正解じゃない。そこはあと学会でいろんな人が検証していくとか、そういうことをやっていく場であって、学会に出たから必ずそれが正しいということでもないのだと思っています。

今回、学会で意見が出ましたということで、中身については把握してないですし、専門家でもないの、特に何か申し上げるということはありません。規制委員会がということ言えば、それは規制委員会が考えること。私たちから求めることじゃなく、規制委員会が自分たちはこうだということ、一回結論を出し、それと違う意見が出ているのであれば規制委員会が何らから考え、意見を言わなくちゃいけないと思うのであれば、規制委員会のお

立場で何かアクションを取られるのだらうと思います。

申し上げましたとおり、学会というのはそういう場なので、規制委員会さんがそこま
でやられるのかどうかというのは、ちょっと私には分かりません。

【秘書広報主幹】 それでは、ほかにご質問のある方はいらっしゃいますか。

それでは、本日、一般事業発表はございませんので、以上をもちまして市長記者会見を
終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後1時58分終了